

令和元年度 学校教育自己診断の結果のお知らせ

昨年末に子供たちをはじめ保護者の皆様方にご協力いただきました「学校教育自己診断」(学校アンケート)の結果をまとめました。この調査は毎年ほぼ同じ項目で実施しており、学校教育の活性化や改善の資料とさせていただきます。



～1・2年の児童のアンケートより～

1. アンケート項目全体を見ると、5項目中3項目が昨年度とほぼ同じ数値でした。
2. 昨年度より肯定的評価が上がった項目は、「学校へ行くのが楽しい」でした。

すべての項目で8割か8割以上、2項目で9割以上の肯定的な意見でした。

低学年は、学級担任との関係が学校生活が楽しいかどうかに関心があります。各学級ともこれまでと同様に、子どもたち一人ひとりを丁寧に見取り対話しながら、安心して過ごせる学級づくりに努めていきます。授業においては、誰もが「わかる」「できる」授業をめざして、研鑽を積んでまいりたいと思います。また、授業では安心して質問したり、わからないことを言えるような学級経営をめざします。授業で子どもたちと担任がよい関係を築いていけるよう、ご家庭でも前向きな声かけをよろしくお願いいたします。

～3年から6年までの児童のアンケートより～

1. アンケート項目全体を見ると、17項目中8項目が昨年度とほぼ同じ数値でした。
2. 昨年度より肯定的評価が高かった項目は8項目で、特に高かった項目は「先生たちは学習で自分が頑張っている事を認めてくれている」「先生や友だちは自分のよいところを認めてくれている」「行事や授業などを通して近隣の小学校・中学校や幼稚園と交流することがある」と「社会のルールについて学習することがある」でした。
3. 昨年度より肯定的評価が低かったのは、「児童会活動は楽しい」でした。

毎年、全体的に学校生活については肯定的意見が多く、先生との関係性や自尊感情にかかわる項目が低い傾向があります。これは思春期に入る5・6年生で特にその傾向が強くなります。しかし、今年度は「先生たちは学習で自分が頑張っている事を認めてくれている」「先生や友だちは自分のよいところを認めてくれている」など、自己肯定感にかかわる項目が9ポイント以上高く、子どもたちが日々の学校生活や学習で自信をつけたことと合わせて、これまでの道徳や人権教育での学習活動の取り組みの成果だと考えています。これに慢心せず、子どもたちを積極的に認め褒めること、相談しやすい環境を整えることなど、今後も全教職員で改善していきたいと思っております。

～保護者のみなさまのアンケートより～

回収率80.8%でした。ご協力をありがとうございました。

1. 肯定的評価が80%以上の項目は13項目中10項目でした。
特に90%以上の高い評価の項目は、以下の項目でした。
 - ・「学校は、保護者や地域の人が授業を参観する機会を設けている」
 - ・「学校から家庭への連絡は学校便りや学年だより、HP、懇談会などを通じて適切に行われている」
 - ・「地震や台風などの場合の対応方法が、児童や保護者に知らされている」
 - ・「児童会行事や運動会・宿泊学習などの学校行事は、児童が楽しく参加できるように工夫されている」
2. 一番肯定的評価が低かった項目は、「学校の施設・設備は学習環境面で整っている」でした。



昨年度と比較して肯定的意見が向上したのは13項目中9項目でした。今年度もたくさんの保護者の方が学校に足を運んでいただき、第三中学校をはじめ近隣の学校にも関心を持ち、学校からの発信に意識を向けていただいていることがわかりました。肯定的評価が最も低かった学校の施設・設備については、今年度に夏から始まった体育館前のトイレなどの改修工事が長引き、きれいになったトイレを実感していただく時間がなかったことが、大きな原因のひとつだと考えています。他の施設設備面の強化もこれまで以上に、教育委員会に要望として挙げていきたいと思っています。今年度はトイレ改修工事、プールフェンス工事など、工事関係でご来校の折にいろいろご不便をおかけいたしました。

次年度以降も、学校の教育がより地域や保護者の皆様に関かれたものとなるよう、学校の方針や教育活動の意図をわかりやすくお伝えするとともに、教育活動を参観していただく機会を提供してまいります。

～保護者のみなさまからのご意見より～

今年度も、保護者の方々からたくさんの貴重なご意見をいただきました。いただきましたご意見は、すべての教員が目を通し、今後の教育活動に役立ててまいります。ここでは、主なご意見に対してお答えします。

Q 先生の数を増やしてほしい。1クラスの学年が出てきており、高学年に向けて子どもの学年も1クラスになるのではないかと不安に思っている。クラス数はどのように決めているのか。

A 各学校の教員は、学校に在籍する児童の数によって、法律の規定により大阪府が配置しています。つまり、個別の事情に関係なく、児童の人数によってクラス数が決まります。法律の規定では、40人までは1クラスですが、41人だと、20人と21人の2クラスになります。ただし、低学年への配慮として、1・2年生は35人が上限になっています。

| 1年生 | 2年生 | 3年生 | 4年生 | 5年生 | 6年生 |
|----------------------|-----|-----|-----------|-----|-----|
| 少人数学級編成 上限35人1クラス | | | 上限40人1クラス | | |

しかし、上の図は、通常学級に在籍する児童の規定なので、支援学級の子どもを含めて考えられてはいません。支援学級には支援学級の教員が配置されるからです。 (裏に続く→)

例えば、3年生に42人在籍していたとします。普通だと、この場合40人を超えているので、21人と21人の2クラスになります。ただし、この学年に3人の支援学級在籍の児童がいる場合は、支援学級の3人の児童数を引くと通常学級在籍が39人になるので、1クラスとなります。つまり、この学年は42人いて2クラスになるように思われますが、1クラスになってしまう場合もあるということです。本校でいうと、4年生が40人を超えていますが、同じように1クラスになっています。

このように、基本的にクラス数は児童の在籍数で決定されており、その基準となる日が毎年5月1日になっています。5月1日を過ぎますと、通常学級在籍の児童が40人を超えても、1クラスのままでいたり、何人が転校して40人以下になっても2クラスのままでいたり、クラス数に変更されることはありません。毎年、年度末にお願いしている在籍数調査も、次年度のクラス数が決定する、とても重要な調査なのです。本校はどの学年も40~50人という、1クラスか2クラスかぎりぎりの人数で推移しており、次年度はさらに1クラスの学年が増える可能性があります。2月の在籍調査もよろしくお願ひいたします。

Q 授業中に起こった怪我の対応について、不安がある。緊急事態が起こった時の職員の連携や体制は、どうなっているのか。

A 大きな怪我などの事故や不審者の侵入などの事件が校内で起こった場合は、年度当初に見直しと確認をしている「緊急対応マニュアル」に則って、対応に当たることになっています。毎年、児童の避難訓練とは別に、教職員研修として、教職員だけの訓練も行っています。今年度は、校内に不審者が侵入した場合と、アレルギーを持つ児童に緊急事態があった場合のシュミレーション訓練を行いました。シュミレーション訓練をするだけでなく、その後はそれぞれの役割がどうであったのか振り返り、対応を改善するようにしています。

学校での緊急事態には様々なものがあり、すべての場合で同じ対応ができるわけではありませんが、大切なのは備えて準備しておくこと、実際に起こったことを、全体で共有して振り返り、改善していくことだと考えています。

今年度、体育の授業中に大きな怪我があり、指導や連絡、対応などで、本人をはじめ保護者の方に大きな不安を与えてしまったことがありました。また、それ以外でも日々の学校対応等で、ご心配をおかけした事案があったことと思います。大変申し訳ございませんでした。ここで改めて謝罪させていただくとともに、今後そのようなことがないよう教職員一同で危機管理体制を今一度見直してまいります。

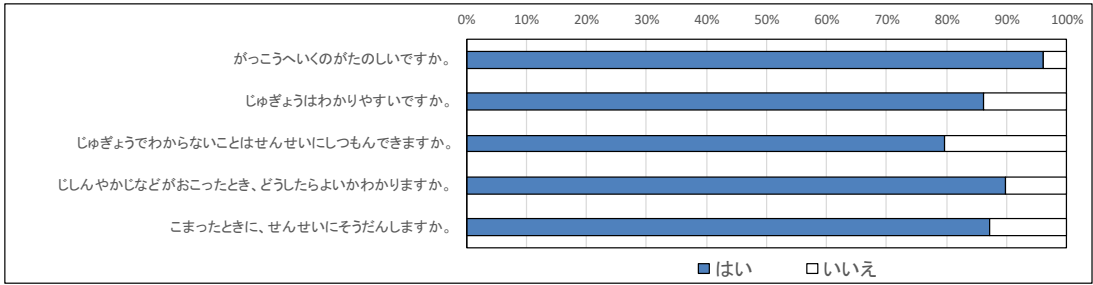
○この他にも、「生活指導についてのご意見」「学校施設の改善についてのご意見」「雷雨などの時の対応についてのご意見」など、様々なご意見をいただいております。紙面の関係上、すべてにお答えはできませんが、ご意見は真摯に受け止め、今後の教育活動の参考にさせていただきます。

最後に、担任をはじめとする教職員に温かいご意見を多数頂戴いたしました。教職員一同、なお一層ご期待に沿えるよう、努力を継続していく所存でございます。研修の充実や普段の教育活動における切磋琢磨を大切に、学校全体として教員の指導力向上に努めてまいります。

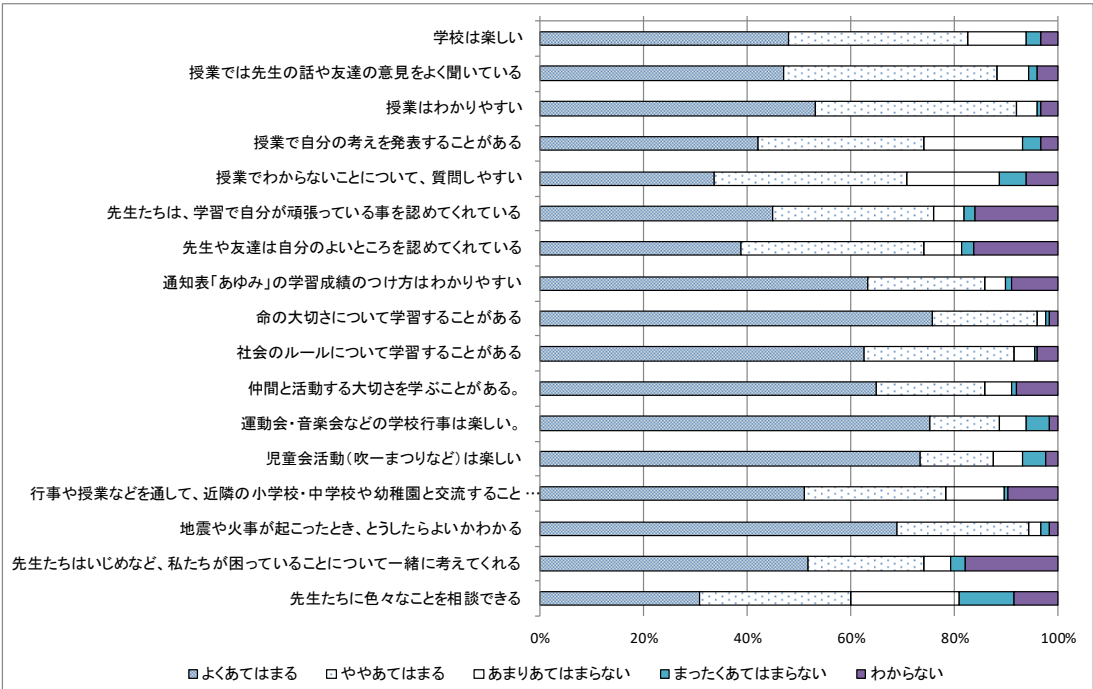
本校教育活動の推進に今後ともご理解ご協力をお願い申し上げます。

令和元年度 学校教育自己診断 集計グラフ (児童・保護者別)

1・2年 児童



3～6年 児童



保護者

